

J R 東日本労働組合

NAGANO

E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp



2019年 3月14日 No. 308

JR東日本労働組合

長野地方本部

発行者：臼井幸一

編集：情宣部

2019春闘第2回団体交渉が開催されました！



中央本部は3月11日、申第14号「2019年度賃金改善に関する申し入れ」の第2回目の交渉に臨みました。交渉の席で様々な資料をもとに本部は、「東日本大震災やリーマンショック以降の我々の奮闘」「社員が減少したことによる一人ひとりの労働生産性の向上」「将来にわたり価値ある費用として満額回答をしても賃金を出せる体力が会社には十二分にある」「昨年のような定率回答ではなく定額回答を求める」など、業績や我々の今までの奮闘を見ても満額回答を出せることを会社側に力強く申し入れました。一方経営側は、

- ベアの基本的考え方について、物価上昇や生計費の水準、施策的要素、あるいは賃金カーブがどのようになっているのかなどをそれぞれ考慮し、生産性向上への成果配分が基本的な考慮要素である。
- 当社の基本給は一つでまとまっている。(職責や資格、等級、年齢に応じた生計費水準)さまざま勘案した上で総合的に決定していく性格をもっているため、会社としては職責も非常に重要だと考えているが、それだけをもってのみ判断するのではなく、総合的に考えて決定している。
- 一律の要求をいただいた。それを否定するものではないが、会社としてはベアの実施方法はさまざまある。定額実施もあれば昨年のように「パーセント」と初任給を組み合わせる方法や職制ごとの所定昇給額をベースにして行う方法もある。一つのやり方で固定するよりはバランスを見ながら実施すべきであると考えている。
- 職責や率など一律ではないものもベアにおいては有用であると考えている。
- 決算は断面をもって判断するものではない。今回、総合的な判断をした上で会社として中長期的に見て「利益水準の維持」などを注視していく必要があると考えている。

などと、主張してきました。

主要企業の2019年春闘回答

- ・電機連合ー日立製作所、Panasonic、三菱電機、富士通、NEC、東芝、SHARP
各会社ベア1,000円(昨年実績1,500円)
- ・自動車総連ー日産自動車
ベア3,000円(昨年3,000円)
- ・ホンダ
ベア1,400円(昨年1,700円)

世界的な景気減速への懸念、10月の消費税増税への懸念、「官製春闘」からの脱却など、様々な要因が重なりベア前年割れが相次いでいます。一方、前会長の事件など、業績不振な日産が社員の士気向上を狙ってベア満額を回答しています。JR東日本には満額回答を出せる体力が十二分にあります！全JR労働者の結集で社員、エルダー社員、グリーンスタッフへの一律6,000円、昇給係数4係数を会社に求めていきましょう！